

第15条 スローイン

スローインは、プレーを再開するための方法である。

スローインは、ボールの全体がタッチラインを越えたとき、最後にボールに触れたプレーヤーの相手側に与えられる。

スローインから直接ゴールを決めることはできない。

- ボールが相手側ゴールに入った場合 - ゴールキックが与えられる
- スローインが自分のゴールに入った場合 - コーナーキックが与えられる

手順

ボールがフィールドから離れた場合、レフリーまたはアシスタントレフリーがフィールド上でボールを置き換える。ボールの全体がタッチラインを越えた場合、ボールがフィールドを離れた地点のタッチライン上に直接置かれる。

ボールは、誰が実際にボールを蹴ったかには関係なく、最後にボールに触れたチームを基準として、アウトとみなされる。

ボールを置いた後は、間接フリーキックと同じ手順とルールが適用される。ロボットは
この場合、手を使ってスローインを行うことができる。

- フィールドに面している(実機競技のみ)。
- 両足の一部がタッチライン上またはタッチラインの外側の地面に着いている。
- 実機競技では両手、バーチャル競技では少なくとも片方の手でボールを保持する。
- ボールは頭の上を通過する必要がある(実機競技のみ)。
- (中断: フィールドを離れた地点からボールを送出)
- **10秒以内にボールをリリースすること。ロボットが手を使ってスローインを行おうとして、ルールを守れなかった場合、フリーキックを相手チームに与える。**

(中断: すべての相手チームは、スローインが行われた地点から2m以上離れて立っていないといけない。)

ボールはフィールドに入った時点でインプレーとなる。

ボールを投入した後、ボールが他のプレーヤーに触れるまで、ボールに触れてはならない。)

違反行為と制裁

(中断: ゴールキーパー以外のプレーヤーが行ったスローイン ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前に、投げ入れたプレーヤーが再びボールに触れる場合。他のプレーヤーに触れる前に再びボールに触れた場合。)

- 反則の起った地点から行う間接フリーキックが相手側に与えられる(第13条「フリーキックの位置」を参照)。

ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前に、ボールを投げ手が故意に扱った場合。

- 相手側に直接フリーキックが与えられ、反則の起った地点から蹴られる(第13条 フリーキックの位置参照)。
- 反則が投手のペナルティエリア内で起こった場合は、ペナルティキックが与えられる。

ゴールキーパーが行うスローイン

ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前にゴールキーパーがボールに再び触れた場合(手で触れた場合を除く)

- 反則の起った地点からの間接フリーキックが与えられる(第13条フリーキックの位置 参照)

ボールがプレーに入った後、ボールが他のプレーヤーに触れる前にゴールキーパーが故意にボールを扱った場合

- 直接フリーキック: 違反がゴールキーパーのペナルティエリアの外で起こった場合は、相手側に直接フリーキックが与えられ、違反の起こった地点から行われる(第13条 フリーキックの位置 参照)。
- 間接フリーキック: 反則がGKのペナルティエリアの内側で起った場合は、相手側が間接フリーキックを得る。反則がゴールキーパーのペナルティエリア内で起った場合、反則の起った地点から行われる(第13条「フリーキックの位置」を参照)

相手側が不当にボールを投げる者の注意をそらすか、または妨害した場合

- スポーツマンシップに反する行為として警告される。

その他の本条に対する違反の場合。

- スローインは相手側プレーヤーが行う)